

マタイの福音書 聖書講解シリーズ

18) 誓いについて

マタイ 5:33-37

2019.6.23 HKJCF

1

概観

律法学者によって曲解されたモーセの律法を説明すると共に、人間の心の逃避性や無責任を指摘された。神様の真実性から御国の民のあるべき姿を学ぼう。

アウトライン

- | | |
|-----------|--------|
| 1. 誓約について | V33 |
| 2. 責任について | V34-36 |
| 3. 真実について | V37 |

2

1. 誓約について V33

- 1) 昔の人々：律法の要約（レビ 19:12；民数 30:2）。
神の御名＝第三戒の誤った理解。
- 2) 誓いの習慣：神の呼び出しと祝福や罰の概念。
信憑性の向上のため、神の名を悪用。
- 3) 主に果たす：誓いの有無、最終的に神様に対して責任を負う→言葉の真実性。
- 4) 現代社会で：結婚式、洗礼式、裁判、スポーツの宣誓→責任範囲の理解。責任を果たす機会として捉える。

3

2. 責任について V34-36

- 1) 律法学者の悪知恵：「神の御名が使われなかったら、誓いを破ってもいい」。
- 2) 天、地、エルサレム、頭：すべてが神様の創造で、神様と関係がある（イザヤ 66:1；詩篇 48:2）
→人間の誓いは無効で、不必要。
- 3) 責任逃れの心：誓いの極論＝真実味の無さの証拠。人間の偽りの心に気づく。
- 4) 恐れ的心：最善を尽くす概念＝自分ができる、理解できる、見通しが立つこと。

4

3. 真実について V37

- 1) そのままの姿：真実な会話の実現＝受容され、裁かれない関係が条件。
- 2) 発言の重み：神の御名を盾にしない（ヤコブ 5:12）；誓いがなくても責任が伴う。
- 3) 交わりの配慮：過剰補償と過小評価；「完璧を求めず、前進を目指す」。人間の 実態、一貫性の無さを理解する。
- 4) それ以上のこと：神の主権を侵さない；真実の基準を無視しない。

5

適用

①神様と隣人に真実に交わるように：
神様、隣人、そして自分のできることをもっと信頼して、心にある思いをなるべく 真実に話す機会が増えるように。

②神様のへりくだりに感謝するように：
アブラハムがもっと確信を持つことができると、神様は誓われた（ヘブル 6:17）。

6